



# Ho! ManaBU しんぶん

2011.2.22 No.27

子どもの笑顔に会うために！



## Ho! ManaBU 中間評価結果

～ Ho! ManaBU 研修に2万人が参加！～

Ho! ManaBU プロジェクトの中間評価が、1月24日から2月11日まで3週間の日程で、当地オロミア州で行われました。期間中、JICA 人間開発部基礎教育グループ佐久間潤次長を団長とする中間評価団は、オロミア州教育局（OEB）のエシエトゥ局長やマルカ副局長との協議、連邦教育省や州財務経済開発局（BOFED）への表敬訪問、プロジェクトパイロット校の視察、プロジェクトチームメンバーとの協議などを通じて、これまでのプロジェクトの成果と今後の課題を確認しました。



学校での聞き取り調査

まず、成果では、300回以上のHo! ManaBU（HM）研修実施、2万人近い参加者（下表参照）、中途退学者の減少、地域住民の学校運営への参加の活発化、他の活動との相乗効果を通じた課題解決、パイロット校以外でのHM研修実施、自主的なファシリテーター研修（TOT）の実施、そしてHM研修普及を目指したOEB主体計画の動きなどが認められました。一方、課題としては、研修ファシリテーション能力やモニタリング体制の強化、国家教育プログラムGEQIP（基礎教育の質向上のためのプログラム）のコンポーネントのひとつ「学校改善プログラム（SIP）」との連携強化などが挙げられています。

### <数字で見るHo! ManaBU 研修の成果と課題>

研修回数	323回
研修参加者（延べ数）	19,732人
研修後、新たに行われた学校改善活動	158活動
郡・特別市教育事務所によるモニタリング回数	108回
研修報告書提出率	69.5%
進捗報告提出率	47.1%

\*上記結果は、104のパイロットCRCのうち、OEBの既存のレポート提出フローを通じて75CRCから提出された323の報告書に基づいて集計したものです。聞き取り調査などから、研修を実施しながら報告書を提出していない例や、提出したのにOEBに届いていない例もあることが確認されていることから、実際の研修実施回数や参加人数は表記の数字を大きく上回ることが予想されます。

これらの結果に基づいた評価団からの提言として、大きく、1) 研修定着のための組織力強化、2) TOTとHM研修の効果とインパクト向上、そして3) プロジェクトの成果やインパクトの普及のための課題という3つの観点から「OEBのマネジメント能力強化」、「HM研修を通じた学校計画の策定・実施プロセス支援の検討」、「プロジェクト成果を測るための確実なデータ収集」など数項目が挙げられました。最後に、評価団とプロジェクトチームで、プロジェクト活動の基盤となるPDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス）とPO（活動計画）の改訂作業が行われ、これからプロジェクトが目指すものとその道筋を整理していきました。今回の中間評価では、これまでのプロジェクト活動の進捗を振り返るよい機会でした。客観的な数字で示せる成果がある一方、先方政府との日々の信頼関係構築や、研修による学校や地域住民の内面的な変容の過程など、数値化しにくい成果もあります。「目指すものの本質を見失わずに努力していくこと」と「JICAプロジェクトとして関係者に目に見える成果をわかりやすく提示していくこと」、この2つをいかにバランスよく組み合わせていくか、これはプロジェクトに携わる者の永遠の課題のような気がしますが、皆さんはいかがお考えでしょうか？新PDMは改訂作業が完了してから、しんぶんでご紹介したいと思います。

## 第4回合同調整委員会の開催

中間評価にあわせ、2月10日に第4回合同調整委員会（JSC）が開催され、エチオピア側からはOEBエシエトゥ局長、フィテ副局長、県教育事務所（ZEO）担当官、連邦教育省、財務経済開発省担当者、日本側からは在エチオピア日本大使館伊藤嘉章公使、JICAエチオピア事務所大田孝治所長、中間評価団など30名余りが出席しました。同会では、プロジェクト活動の報告、評価団から中間評価結果及び今後の方向性が発表され、出席者にPDM改訂案が共有されたあと、佐久間団長とエシエトゥ局長によるミニッツ案署名式、続いて質疑応答が行われました。



ミニッツ案署名式の後の握手

\*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

エシェトゥウ局長からは、開会の辞として、これまでの JICA の支援に対し謝辞が述べられるとともに、中途退学に役立っている HM 研修を今後オロミア州全土に普及する重要性が呼びかけられました。また伊藤公使はご自身のご経験を基に、異なる文化を受け入れる素地のあるオロミア州において Ho! ManaBU が広く受け入れられることへの期待を表明され、閉会の辞では大田エチオピア事務所長からも、Ho! ManaBU をエチオピアだけでなく、広くアフリカ、全世界に広めたいという熱いメッセージが届けられました。ちなみに、今回 JSC に参加した ZEO 担当官 11 名の内、数名は昨年の TOT 以降に新たに着任した行政官で、頻繁な人事異動を改めて思い知らされました。

### 学校視察をとおして

今回の学校視察は、中間評価と 2 年目の HM 研修「Discover our school (DOS)」の実施状況のモニタリングも兼ねて、プロジェクト対象 13 県のうち、西ハラルゲ県、東ショア県、西アルシ県、南西ショア県にあるパイロット校 7 校を訪れ、各校で HM 研修を視察するとともに、評価団による CRC 担当官・校長・主任・地域住民への聞き取り調査が行われました。学校訪問での様子をおなじみの会話形式で振り返ってみました。(野邊 Fira、菊池 Gelana、五十嵐 Hawi)

西ハラルゲ県	ガラ・ニグス小学校 (衛星校) ワチュ小学校 ガラムソ No.1 小学校 メタケシャ・ケケリ小学校
東ショア県	アボサ小学校
西アルシ県	ワヨ・ダレラ小学校
南西ショア県	ゴロ小学校

F: 中間評価団員の方々とともに、計 7 校 (上表参照) の視察に同行し、HM 研修を観察したのですが・・・率直な感想は?

H: 私は 7 校のうち、5 校を視察しました。今回の学校視察は、HM 研修を活発に行っている CRC とそうでないところを選んで、現場の状況を多角的に提示できるよう努めました。ちょうど試験休み期間と重なったこともあって、訪問校の選定が難しかったですよね。学校側も教員や地域住民の招集に苦労したと思います。私が視察した学校は、全体的にちょっと低調気味で (笑)、それはそれでプロジェクトとしては、今後の課題として改善策を考える材料になったけれど、せめて一校ぐらいは、評価団の皆さんに「おー！」と言ってもらえるような学校訪問がしたかったというのが正直なところです (笑)。

F: そうだね。ハワイが同行した 5 校は課題の発見にはなったけど、HM 研修の素晴らしさを前面に出す！という感じではなかったし...。けど、西ハラルゲ県のガラ・ニグス小学校とワチュ小学校の進行役は、レベル 1 並のスキルを持っていて、地域住民への働きかけもうまかったよ。ワチュ小学校では「中途退学への気づき」研修が実施されたんだけど、昨年の HM 研修を実施していた CRC 担当官は、今年度から中学校へ異動し、それも当日は試験休みだったにも関わらず、HM 研修の進行役を努めてくれて...、さらに、アシスタント・ファシリテーターを務めていた女性の主任教諭が、ゲーム・討議後の紙芝居を担当したんだけど、紙芝居プロ (自称) の私もビックリするほど、完璧だったよな。あれは何度も繰り返し練習してるね。



プロ(?) も絶賛した紙芝居

H: 西ハラルゲ県のメタケシャ・ケケリ小学校では、「女子教育啓発」の研修を視察することになっていたのですが、行ってみると「DOS」を準備してくれていたのですね。それで、「女子教育」に変更してもらえないかとお願いしたところ、さっさと何の戸惑いもなく「女子教育」研修を始めたのです。これにはちょっと驚き、また感心しました。日頃から研修をやっているという証拠ですよ。CRC 担当官・校長・主任は、3 人も一昨年・昨年と続けて TOT に参加しているとのこと。街で会ったら、絶対に教員には見えないだろうなあーという感じの若手 3 人組なのですが (笑)。

F: それって、結構すごいことだね。私だったら前日にマニュアル再度読まないで、研修実施できないし！ところで、7 校を全部視察したガラナの印象は?

G: 思ったより皆、ちゃんとやってくれてる、ていう感じかなあ。だから「全体的に不調」って聞くと、ふうん、そーなんだ、ていうのが第一印象。それと、結構前のこと、例えばもう 1 年以上前にやった研修のことをちゃんと覚えてる。オシなんかそんな前のこと聞かれたら絶対答えられないけど、みんなあの研修はあーだったこーだった、てスラスラ答えるの。ビックリ。あ、あと特筆すべきは、どこへ行ってもカード 1 枚失くしてない。研修キットってどれも小さなカードとかパーツが多いんだけど、全然無くなってない。これは他の国ではちょっと考えられなくない?

F: 確かに！普段のモニタリングを通して研修キットをきちんと管理してるのが当たり前なんで…。改めて指摘されるとすごいことだね。じゃ、次に2年目のHM研修「DOS」の実施状況から感じたことは？

H: 「DOS」については、パート1にあたる学校職員による分析を踏まえての、学校の環境について地域住民と共に考えていくパート2の研修を2つのCRCで視察しました。両CRC共に、全体の流れは間違っていないのだけれど、チャートシートの置き方や質問の仕方をもう少し工夫がほしいなと思いました。またファシリテーターとアシスタント・ファシリテーターの役割分担ももう少し明確にした方がいいなと思う場面も結構ありました。

G: そーゆーのってなあ、結局センスだったりするんだよなあ…。ところである学校では、最後に3つの課題を選ぶ、っていうところをもう一步踏み込んで、「改善のための計画を作る」、という風にアレンジしてた。そういう発展的な発想は歓迎したいところなんだけど、残念ながらそれが全然「計画」になってないの。漫然と「やること」を書き出しただけ。図らずも「計画」に対する感覚の違いが露呈してしまったわけで、次のステップである「計画」研修を作る身としては色々考えてしまったなあ。

F: 私もあの研修の様子を観察し、次の「計画」研修の重要性を改めて感じましたね。他の学校のモニタリングや「DOS」の研修報告書なども通して、「計画」研修のヒント探しておきます！さて、「DOS」は、パート1とパート2に分かれていて、パート1にはさらにセッション1と2があり、学校側が「調査役の選定」「調査」「分析」「協議」「学校の責任分担の明確化」などいろんなことをやらないと、パート2の「地域住民との共有」が実施できないんだけど…。だから、学校としては昨年のHM研修の方が「(楽で) いい！」と思うってたら…、「今年のHM研修は自分たちの学校のことが理解できる点で、昨年の研修より素晴らしい！」という意見が聞けてびっくりでしたね。

F: ところで聞き取り調査から得られた発見はありましたか？

H: 今回の聞き取り調査では、学校の「やる気」はどこから生まれるのか、という極めて根本的なことを改めて考える機会が多かったかな。「HM研修は、

他の研修と違ってお茶代や参加者への日当などが出ないので、そのような環境に慣れてしまっている地域住民を招集するのは難しい。」という意見が出る一方で、「それでも、HM研修は他の研修と違って、インパクトがある。」と答えるCRC担当官がいたり、「学校から招集がかかれば、私たちは参加しますよ。」と答えてくれる地域住民がいたり…。

G: とんでもない話が出なくて一安心(笑)。けどなんていうか、やっぱり現場が基本だな。足、運ばなきゃだめだわ。何が解る、っていうんじゃなくとも、周りの環境、その場の空気、人の表情とか…。そういうの、ちゃんと知っておかないと。



F: 私たちはちゃんと知ってるよ(笑)！けど、短期の専門家はこうやって現場に足を運ぶのって結構大変だから、中間評価団とともに4つの県を巡回し視察できて良かったね。聞き取り調査に関しては、プロジェクトから質問すると「誘導してる」と思われるかな？と考えて、私は質問しなかったけど…。ハワイと同じく「やる気」の根源を知りたかったな。では、ハワイ、最後にひとこと！

H: 今回の中間評価にあたり、エシエトゥ局長をはじめとするOEB関係者、Ho! ManaBU対象郡の教育事務所、そしてご協力いただいたパイロットCRC、地域住民の皆さん、プロジェクトチーム一同心から感謝します。ガラトーマ！（オロミア語で「ありがとう」の意味）。

H: 余談ですが、西ハラルゲのメタケシャ・ケケリ小学校は、プロジェクトとしては初めての訪問校で、CRC担当官からは「幹線道路から車で15分ほどだよ」と言われていました。でも、実際には、細い山道を登ったり、下ったり、結局1時間近い道のりでした。なにしろ、途中で通りがかりの人に学校を訪ねると、天を指さしましたからねえ。山の上にある、ということをお願いしたかっただけですが、これにはガラナと大爆笑。エチオピア人と日本人の時間と空間の感覚の違いが如実に表れている例ですよ。やっこのことで、学校に着くと、供与した発電機を動かして、エチオピア音楽をかけて出迎えてくれただけでなく、帰り際にコーラなどの飲み物をふるまってくれました。移動時間が大幅に狂ってしまったため、学校の滞在時間が短くなってしまって、申し訳なかったです。あっ、それから・・・

F: ハワイ、ひとことになってないよ！